# NIE実践報告

１．タイトル：東日本大震災に関する新聞記事を使った教材の研究

２．学校名

長野県上田市立第四中学校

３．実践者名（代表者名）

岡部仁

４．学年

３学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳　約２００人

６．単元（本時の学習課題）名

日本人の底力を知る。

７．目標(狙い)

東日本大震災で日本人が示した底力を知ってほしい。

８．評価の視点

日本人の底力を知ることができたか。これからの生き方について書くことができたか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

日本人の底力を知る。約４時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１　義務教育最後の年、私たちがやらなければならないことは何か。（１時間）
１学期の始業式の日に配付した大船渡の小学校の記事。この記事を読んだ後、今年度の目標を書かせた。
２　新聞記者の伝える使命　（１時間）
東日本大震災の当日、輪転機が水浸しのため動かず、手書きの壁新聞を６日間発行し続けた宮城県石巻市の石巻日日新聞社。現地で近江弘一社長にインタビューができた。当時の様子などをもとに授業にした。
３　「津波てんでんこ」の教えに従い、中学生が地域の大人、小学生を誘導し救った記事　（３０分）
「恐怖で泣き出す児童の手を引っ張ったり、負ぶったりして避難所を目指した」。避難訓練の前に資料として配付。
４　震災に遭ったドイツ人が行く先々で日本人の支援を得て帰国した記事　（１時間）
トルコ人が乗船したエルトゥールル号が遭難し日本人が乗客員を救助したことを紹介。そして東日本大震災時にドイツ人に支援した日本人の優しさに触れる記事を紹介。ドイツ人のユルゲンさんたちが行った先々で支援を受け、帰国するまでの箇所に線を引かせた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

１　自分たちにできる目標を考えることができた。２　新聞発行をするにはあまりにも過酷な状況の中、情報を伝えるのが新聞記者としての使命であることに感動した。３　私語もなく真剣に訓練に参加ができた。４　自分たちも被災者にもかかわらず、ドイツ人への支援はをする日本人の優しさを感じることができた。

12．成果と課題

「見出しを考えよう」、「記者はなぜその見出しにしたと思いますか」と問う事例がある。それは記者へ思いを寄せる授業なのか。本当の答えは記者本人に聞かない限りわからない発問である。私は石巻日日新聞に出向き、近江社長にお会することで見出しに込めた思いを発問として取り入ることができた。手書きの壁新聞だったからこそ、より一層、記者の思いを強く生徒に感じさせることができた。今後も震災関係の記事を通して、未来に向けて歩む人々の姿や勇気や希望に満ちた記事を探し、これからの日本を背負う中学生に紹介していきたい。